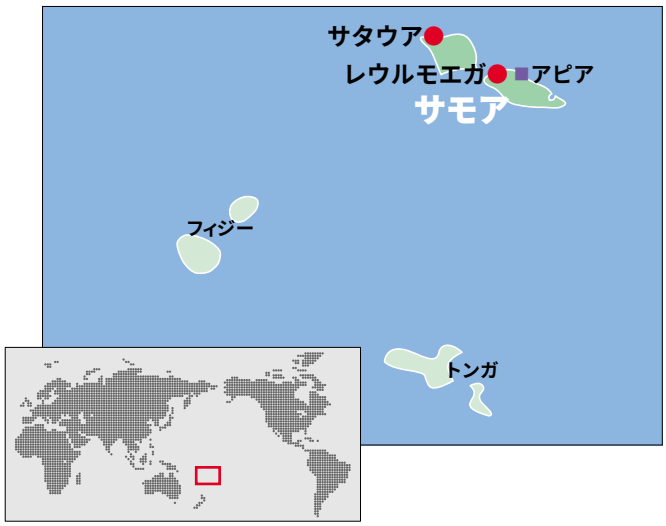
サモア

診療所再建計画



実施地域

サタウア、レウルモエガ

1．プロジェクト要請の背景

サモア政府は、医療サービス向上のため、1980年からの第４次開発５か年計画において、地域診療所の整備計画を策定した。その一環として、サモア政府は、人口密集地域で、かつ国際空港や埠頭に隣接して事故の際の救急活動の任務を負うウポル島レウルモエガ地区と、サバイ島サタウア地区の２か所の診療所建設について、我が国に無償資金協力を要請した。

我が国は1982年に２診療所施設と医療機器の整備を行ったが、その後、1990年のサイクロン襲来によってサタウア診療所が大きな被害を受け、診療活動に支障をきたしていたことから、1991年度、同診療所の修復のため、我が国はフォローアップを実施した。

2．プロジェクトの概要

(1) 協力期間

1982年度

1991年度（フォローアップ）

(2) 援助形態

無償資金協力

(3) 相手側実施機関

保健省

(4) 協力の内容

1) 上位目標

サモアの地方部の医療事情が改善される。

2) プロジェクト目標

ウポル島北西部及びサバイ島に地域保健サービスの拠点を整備する。

3) 成果

a) ウポル島レウルモエガ地区及びサバイ島サタウア地区に診療所を建設する。

b) 建設された２か所の診療所に医療用機材を整備する。

c) サイクロンによるサタウア診療所の被災を復旧する（フォローアップ）。

4) 投入

日本側

E／N供与限度額　5.70億円

サモア側

建設用地

電気、給水、外構工事

ローカルコスト

3．調査団構成

JICAサモア事務所

（現地コンサルタント：Maria Melei, Kolone Vaai & Associatesに委託）

4．調査団派遣期間（調査実施時期）

1998年12月1日～1998年12月17日

5．評価結果

(1) 効率性

両診療所とも、施設規模、整備機材数などは適切であり、施設建設、機材整備は当初計画どおり完了した。サイクロンにより被害を受けたサタウア診療所の修復をフォローアップによって実施したことも適切な措置であった。

(2) 目標達成度

両診療所とも、患者受入れ数などの統計は整備されていないが、本評価での関係者への聞き取りや視察を通じ、周辺地域の住民の医療ニーズに応えた活動を

行っていることが確認された。また、両診療所は、近郊の空港、埠頭、工場に対する救急活動の支援機関ともなっていることから、本プロジェクトの目標は達成されていると判断される。

なお、レウルモエガ診療所では、診療所内での治療だけでなく、診療所の看護チームが周辺村落を訪問し、村落の女性グループと連携して草の根レベルでの医療サービスも提供している。

(3) 効果

周辺住民の医療サービスを受けるための時間と費用が削減され、本プロジェクトはそれまで医療サービスへのアクセスが困難であった地方の住民の健康向上に大きく貢献した。

レウルモエガ診療所の設置により、同じウポル島（首都アピア）にある国立病院への患者の集中が緩和され、国全体としても医療システムの効率化が図られた。

(4) 計画の妥当性

本プロジェクトは、保健医療分野に高い優先度を置くサモア政府の開発政策「保健セクター戦略計画（1998-2003年）」と整合しており、また地方部の住民のニーズにも合致していることから、妥当性は高い。

(5) 自立発展性

整備された機材の部品の入手がサモア国内では困難であり、また維持管理技術を持つ人材も不足しているため、機材の持続的使用に支障を来している。レウルモエガ診療所に設置されたＸ線撮影機材と検査機器は、使用頻度が低かったため、アピアの国立病院へ移されて有効活用されている。

財政的には、両診療所とも、経常経費は政府予算から安定的に確保され、このほか医療費収入もあるものの、これらの額では必ずしも十分でなく、今後の改善が必要である。

なお、現在、両診療所に対して、我が国の草の根無償による改修工事が実施されており、これが終了した後には、両診療所は地域医療機関としての機能を一層発揮するものと期待される。

６．教訓･提言

(1) 教訓

サタウア診療所の立地が海に近かったことが、サイクロンによる被害を大きくした可能性がある。サモアのように自然条件の厳しい国では、施設建設の際、自然災害による被害を受けにくい場所を選ぶ必要があり、そのために相手国側の地域関係者の知見を活用することが重要である。

(2) 提言

両診療所の安定的運営のため、施設・機器などのハード面の協力だけでなく、スタッフの訓練などソフト面の協力も検討することが望ましい。